

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

古墳時代の人々の考え方
～人の持つスーパーパワー～

提出日 2024年 8月 26日 (月)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 2組 25番

氏名 中雄陽

1.きっかけ

僕は、古墳について考えたとき、群馬県立歴史博物館で紹介されていた綿貫観音山古墳のことを思い出しました。この古墳は、近年国宝に指定されており、どのようなものか気になったため、調べてみたことで、興味が湧いたことがあります。それは、現代と古墳時代のお墓や副葬品とは、大きく違うところです。もう一つは、中国などの国が仏教を信仰するなかで、日本はどのような思想をしていたか、です。日本人は古墳を知ってから、数多くの古墳を造りました。ですが、それに対して、日本人の埋葬するときの思想はどう変化しているのか、気になりました。このことから、古墳のような墓や古墳時代の副葬品を見て、外国との交流によって、古墳時代の日本人たちの死者を見送り方や見送りへの思いはどう変わったのか、そして、現代の日本人の死者の見送り方と、どう違うかを、難しいところは観音山古墳を例にして調べてみることにしました。また、考え方ということから、宗教や信仰とのつながりもあるのかも調べていきます。

2.疑問と予想

疑問

僕は、日本の宗教と文化の関係と変化を調べるために、いきなりその話題から始めるわけではなく、このような工程を積んでから行おうと思います。

- (1) 古墳時代の日本人の葬送概念は、縄文時代や弥生時代と比べ、どう変化したのか
- (2) 現代の日本人の葬送概念と、古墳時代頃の日本人の概念は、違うところがあるのか
- (3) 外国の葬送概念との違い
- (4) 日本の宗教と文化の関係と変化、宗教の力

予想

(1) 縄文時代では副葬品がほとんど見つかっていなかったり、弥生時代では、墓から頭の骨がない人骨が出てきたりしています。教科書などから知った知識からは、縄文・弥生時代の人々はあまり墓や葬送することに対して、特別な感情は持っていないように感じます。ですが、古墳時代では、とても大きな古墳や豪華な副葬品が数多く残っていたことや、あまり争いをしていたということは聞かないことから、縄文・弥生時代よりも、死や墓などに関心があったと思います。

(2) 現代では、埋葬や火葬をする家庭が多いですが、最近は火葬する人が多く、葬儀をするとなると、葬儀屋が遺体の搬送や安置などを行うことができます。そして、葬儀を行う理由の一つとして、遺族の気持ちの整理などがあると思います。また、古墳時代では、火葬はできなかったため、土葬を行っていたようです。古墳時代の人々の平均寿命は25歳未満だと聞いたことがあるので、墓を作ったり、副葬品を入れたりするのは死者が豪族だったから、その部下だと予想しています。部下というと、血のつながりも無いので、あまり関わりのないように思うかもしれませんが、この時代では、インターネットやテレビなどのものがないので、人との関わりは深かったと思います。そして、この時代では大和政権が生まれていることから、社会に近いもの(?)が生まれていたと思うので、部下との助け合いが今よりも多くあったと思います。よって、部下は豪族(上司)に、恩返しのために、古墳や副葬品を入れたのだと予想しました。

(3) 外国とは、中国や朝鮮半島を例にして考えていきます。なぜなら、この頃、かなり文明が発達していた国の一つであり、宗教の信仰があるからです。

(4) 縄文時代から日本では、神道という宗教があったのでは、と考えられています。宗教によって、どのような文化が変わったのか、調べていきたいと思います。

3.調査方法

- 1副葬品や古墳の中身を実際に見て、どのようなものかを知る。
- 2.群馬県立歴史博物館に行き、古墳の造りや、時代別の古墳の形や副葬品について知る。
- 3.インターネットや本などで、古墳や副葬品について、時代別に調べる。
- 4.インターネットや本などで、時代別の墓について調べる。

- 5.インターネットや本などで、宗教と古墳や副葬品の関係を調べる。
- 6.インターネットや本などで、法律と葬儀の関係について調べる。
- 7.インターネットや本などで、外国の葬儀や日本の葬儀について調べる。
- 8.これらの情報をまとめ、疑問と予想をもう一度行う。
- 9.自分の最終的な結論を出す。

4.調査

(1) 副葬品について

副葬品について調べていきます。副葬品を調べることで、墓の築造年代、当時の工芸技術水準、風俗習慣、社会構造、葬送観念などを知る手掛りとなります。まず、インターネットで副葬品について調べたところ、全国こども考古学教室によると、

副葬品は縄文時代から存在していたそうです。もちろん、その品物の近くに死者がいたことからわかったそうです。よって、遅くとも2800年以上も前から埋葬があったことがわかります。次に、時代別の埋葬の様子を調べました。すると、縄文時代では、石の矢じり※1や石斧などの生活道具や、石剣や土偶などの祈りの道具や土器があったそうです。また、**男性の墓**からは石斧が、**女性の墓**からは石皿がよく埋葬されていたそうです。この頃から、男性は力仕事、女性は家庭内の仕事というような分担がされていたのかもしれませんが。弥生時代では、朝鮮半島から、鏡などの青銅器、剣などの武器、鉄製の武器、斧などの工具、ガラス製の玉（勾玉やくだ玉）などが伝わり、新しく副葬品に加わっています。また、青銅器は、もともと朝鮮半島や中国から手に入れた貴重な品だったので、それを墓にいれるのは有力者の印となったそうです。古墳時代では、表のような様子でした。

時期	副葬品
前期 3世紀半～4世紀	たくさんの銅鏡 武器 アクセサリー 鉄の農具、工具 石製ミニチュア品
中期 5世紀 中期 5世紀	たくさんの武器 銅鏡 馬具 アクセサリー 鉄の農具、工具
後期 6世紀	武器 馬具 アクセサリー

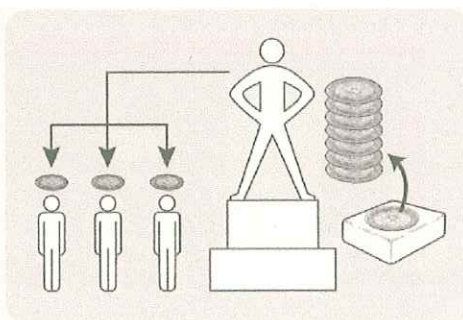
表

古墳時代前期では、丁寧に密封する、おまじないのような副葬品が多いです。

古墳時代中期では、武器をたくさん副葬する、巨大な古墳が造られました。

古墳時代後期では、石室※2に複数の人が埋葬されていた。

僕が、気になったことは、古墳時代前期では、銅鏡のような呪術的なものが多く出土されていますが、古墳時代中期になってからは、武器のような実用的な戦いの道具が多く出土されていることです。この変化が何を意味しているのか、調べてみました。大阪大学考古学研究室によるサイトによると、古墳時代前期は、「銅鏡の時代」と言ってもいいほど、たくさんの銅鏡が副葬されていたそうです。ですが、これらの銅鏡にはどのような意味があったのでしょうか？鏡は姿見（すがたみ）として、自分の顔を見たりするものと思いがちですが、この時期の鏡はやや凸面になっており、顔を映すと、やや歪んでしまいます。実は太陽の光を反射させたりして、そのキラメキこそが大切な部分で、祭祀に用いられていたと想定されてい



るそうです。そして、そこには単なるきれいな祭りの道具以上に、さらに重要な意味があるようです。少し掘り下げてみましょう。そもそもこの鏡はどうやって手に入れたのでしょうか？古墳時代の銅鏡は、それを管理するヤマト政権の中核から、それぞれの地域の首長に分け与えられたものという説が、有力視されています。つまり、当時の首長がそれぞれ勝手に買ったのではなく、ヤマト政権という権威が、首長のことを認める証拠として授与したのではないかと想定されています。政治的な同盟関係のあかし、とも言えるでしょう。なので、銅鏡には、単なるきれいな祭りの道具としてだけではなく、このような政治的な意味も持っていたことがわかりました。

古墳時代前期では、鏡が最重要視されていましたが、古墳時代中期の副葬品は、鉄製の武具が代表されるようです。この時期の武具は、「短甲」（たんこう）という胴よろいが最もポピュラーなんだそうです。もちろん、短甲は戦いの際に胴体を守る役割も果たしていますが、それだけではなく、短甲を副葬する古墳は、全国各地にみとめられています。しかし、重要なのは、それらの全国各地の短甲がおおむね同じ構造をしていることです。このことは、短甲の生産が、ひとところ、強い管理の下で行われていたことを示唆しています。こうしたことから、短甲は、銅鏡と同じように、政権と首長との同盟関係を示すものであったと考えられています。まとめると、銅鏡も短甲も政権と首長との同盟関係を示すという目的は同じだということがわかりました。相違点は、銅鏡は中国や朝鮮半島に似たものが多いですが、古墳時代中期の短甲は、日本列島独自の形となっているところです。この日本列島独自の形というのは、古墳時代の人々の、「自分達だって、新しいものを作るよ」という中国や朝鮮半島へのアピールなのかもしれません（完全にただの予想です）。銅鏡から武具に変化したことの意味は何なのか？それは、高校日本史Bによると、古墳時代の支配者の統治の方法が変化したことを示しているそうです。僕は、今から1000年以上も前から、現代の社会や、物の価値の想像を行っていたことがすごいと思いました。

そして、もう一つ気になったことがあります。それは馬具という道具です。馬具とは、馬につける用具のことです。なぜこの道具が気になったかというと、同盟関係を示すためのものである銅鏡や武具を副葬しているところに、馬具も副葬されている理由がわからないからです。ここで、この疑問を解決するために、馬について調べていきます。まず馬具という道具は、5世紀から登場していることが表からわかりますが、その前には馬はいなかったのでしょうか？答えは、いませんでした。馬は朝鮮半島から日本列島に移住してきた渡来人が連れてきたそうです。そのため、馬はとても貴重なものであり、馬を持っていることが力の大きさを表していたようです。そのため、自分の権力の強さを示すため、馬具を入れたのでしょうか。

※1全国こども考古学教室によると矢じりとは、矢の先につける尖った部分
※2コトバンクによると石室とは、古墳の、石で壁や天井を作った墓室。
縦穴式石室と横穴式石室がある。

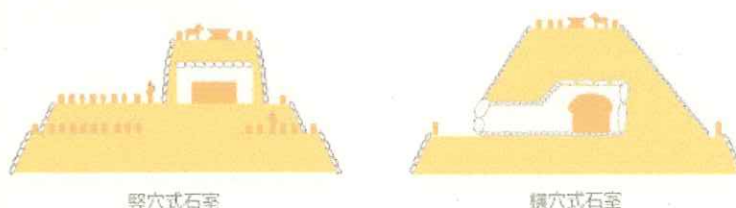


これらのことから、「物」にこのように価値を生み出していたことがわかります。そこで、次は古墳時代の「人」への思いや考えについて考えていきます。

古墳時代の人々の思想～副葬品と石室から～

図2

古墳時代の人々の思想について考えていきます。古墳の人の遺体が置かれているのは、石室という場所です。石室は、古墳の墳丘の中にあります。円墳（えんぶん）や方墳（ほうぶん）なら墳丘の真ん中に、前方後円墳（ぜんぽうこうえんぶん）の場合は後円部にあることが多いです。右にある図2の右側が横穴式石室です。当時、**石室の中＝あの世**と考え



られていたため、石室は外としっかりと分断されていたそうです。石室は死者を葬る玄室と、通路の羨道に分かれています。そんな玄室の中には、まず、須恵器・食器・食物を供える一や、馬具・財力の象徴である飾り馬ーがありました。



遺体のそばには武具・武器ー武力の象徴である甲冑と刀ーや、装身具・鏡・太刀ー祭儀に用いられた盛装ーがあります。このようなものが図3のように並べられていました。図3で書かれているように、豪族は石室の中、当時の人たちが言う黄泉の世界でも「きらびやかであり続ける」ために、貴重な品物を数多く置いていたのかもしれませんが、これは、現在の墓とかなり違う考え方であることがわかります。厚生労働科学研究成果データベースによる墓地理葬等に関する住民の意識調査によると、お墓の広さについては、1位の回答では、お骨がおさ

まればよいとの回答が約7割を占めていました。これは、さいたま市、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市に居住する40歳以上の男女に対してwebアンケートを実施した結果だそうです。全般的に調査対象地域による回答には大きな違いは見られなかったそうなので、これを参考にして考えていきます。古墳時代の人たちからすると、大きいお墓が権力の象徴となりますが、現代人からしてみると、手間がかかるし、時間がかかるし、お金もかかるし、さらには面積ももったいないと感じてしまいます。ですが、古墳時代の人々は、この手間こそが、古墳の大きさと同じくらい、権力の象徴と考えていたのだ、と予想しました。そして、古墳時代の人々からすれば、墓というものも、一種の芸術であったのかもしれませんが。縄文時代や弥生時代では、土器に芸術を感じていたのが、時がたち、古墳を知ったことで、古墳に芸術を見出したのかもしれませんが。また、それに比べ、現代の人々の思想は、ライフスタイルや価値観の多様化から、お葬式や埋葬に対する考え方も様々になっています。

(3) 古墳について

次に、副葬品の観点を交えながら、古墳について調べていきます。古墳を調べることで、古墳時代の人々が、死者をどのように見送ったのかがわかります。今までは、墓の話は古墳しかしていなかったのですが、古墳時代の誰もが古墳に埋葬されたわけではありません。ある特定の人物のための墓であり、一般民衆の墓ではありません。では、古墳時代の一般の人々はどのような墓に埋葬されたのでしょうか？そして、縄文・弥生時代の一般の墓はどのように埋葬されたのかも見ていきます。湯梨浜町役場のサイトに

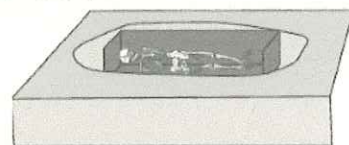
図4 屈葬

によると、古墳時代の一般庶民の墓は、弥生時代と同様に土に穴を掘って遺体を埋める、墳丘のない土坑墓（どこうぼ）※3が大部分で、これは古墳とは呼ばない。小高い墳丘をもち、一見して古墳と判定し得るような墓は、当時の支配階級や有力な農民層だけが築き得たものである、そうです。このことから、一般庶民の墓と、有力な農民層の墓とでは、埋葬方法にかなり差があることがわかります。そして、土坑墓という墓は、縄文時代から続いています。また、小さなお葬式のサイトによると、縄文時代には、屈葬という埋葬方法が行われていました。屈葬とはその名のとおりに、身体を曲げた状態で埋葬されることです。この屈葬は日本以外ではあまり見られない埋葬方法で、他の国ではアフリカの一部地域にのみ存在するようです。この、死体を折り曲げるこの意味は、いくつか説があります。



図5 伸展葬

コトバンクによると、墓穴が小さくてすむという労力節約説、母なる大地に帰るといふ胎児位説、就寝位説、死霊鎮圧説などがある。死霊鎮圧説が最有力な説とされています。弥生時代になると、屈葬から一転して伸展葬が行われるようになります。屈葬とは逆で、身体を伸ばして埋葬する方法です。縄文時代でも一部特権階級には伸展葬が許されていましたが、弥生時代では庶民の間でも伸展葬が一般化しました。伸展葬に変わった理由はいくつかありますが、わざわざ身体を曲げる時間的余裕がなくなったことや、死者が生き返らないことがわかったから、死者が安らかに眠れるようにするためなどがあります。また、この頃から墓が見られるようになったとされています。これは、稲作が伝来したことで農耕が発展し、定住化が進んだことに起因しています。弥生時代以降、大陸から文化が流入してきた影響もあり、土葬が強く根付くこととなります。墓だけを、現代の視点から見ると、縄文・弥生・古墳時代の一般人は、死者を見送るための設備などが不十分のように思えます。そんな中で、人々はどうのように考え、死者を見送っていたのか、調べるため、思想について考えていきます。



※3全国こども考古学教室によると、土坑墓（どこうぼ）とは、弥生時代の人体埋葬施設。図3のように、地面に穴をほって、遺体を埋めただけの墓。

（4）宗教

まず、古墳時代より前の日本の思想について考えていきます。神道国際学会によると、日本では、縄文時代のいつからかはわかりませんが、古神道という宗教があったそうです。コトバンクによると古神道とは仏教や儒教などの影響を受ける以前の日本固有の神道で、日本の土着の宗教だそうです。普通、神道という言葉を書く機会が多いと思います。



神道と古神道の違いは他の宗教の影響を受けているか・いないか、です。古神道は他の宗教の影響を受けていない神道です。神道は、六世紀に入ってきた仏教の影響を受け、儒教やキリスト教など様々な宗教と混ざりあったものです。日本の古代から現代に続く民族宗教であり、日本人の生活文化の全般に浸透し、しかも外来文化を受け入れて、日本的に妥容させるというエネルギーをもっていました。また、三重大大学のサイトによると、

「縄文人は、『円の発想』というものを大事にした。縄文時代は円形を好み、円形の広場を中心に住居を設け、生活をしたという。これは、全てのものを平等に扱うという精神の表れだと言われている。この『円の発想』とは、すべての事物をかけがえのない靈魂を持つ平等のものとみる発想をもっており、その発想が、八百万の神を祀る神道の中心となる日本流の「精霊崇拜」である、ということである。このように、縄文時代の信仰の特徴は、事物には魂が宿るとされる「精霊信仰」であった。その後、弥生時代（紀元前3世紀頃から3世紀頃まで）になると、朝鮮半島から多くの移住者がやってきて、稲作を伝えた。稲作の発展とともに稲作の重要な要素である水や太陽に神を感じることにになり、神が豊穡を左右すると考え、神をあがめることになった。食料を採集する縄文時代の生活から、食料を生産する生活に変わったことで、定住化が進んだ。そして、土地の広さで身分を表すことになり、貧富の差や身分が生まれた。これが、『区分の発想』といわれる。また、農地を開いた祖先に感謝する心が生まれ、『祖霊信仰』が生まれたとされる。縄文時代の精霊崇拜や円の発想と、弥生時代の祖霊信仰や区分の発想が融合し、神道が始まったとされている。」ようです。

縄文時代と弥生時代の話が出ましたが、この移り変わりのところでも人々の変化が見られます。日本宗教学会のサイトによると、「縄文時代から弥生時代への移り変わりは、社会生活や経済生活に大きな変動を引き起こしただけでなく、精神生活の上にも激しい変化を生じた。新しい人々が、種籾や水稲耕作を主とする新しい生業をもって渡来した際、同時に、農耕儀礼や呪術、さらには、それにとまなう説話なども伝えられたであろうし、彼らの行動様式や価値判断の基準も、縄文人のものとは当然違っていた。また、同じ弥生時代のなかでも、旧来の習俗と習合した段階、弥生人が自然に挑戦して、自ら耕地を拓き、専業農民として農民生活を確立し始めた段階、このような農村社会の内に階層化が芽生え、原初的な国家形成への胎動をはらんだ段階に応じて、その精神生活の指導原理は揺れ動き、縄文社会との習合の度合いに応じて、相当の違いを生じたであろうことは疑いない」とあります。これにより、日本の人々は、渡来した人たちの新しい考え方を知り、古神道の考えと混ざり合ったことで、前にも書いてあるように、水や太陽に神を感じるようになるなどの変化がおきた、と予想しました。

また、縄文時代では、死者は蘇ると思われていたようです。そして、屈葬されている遺体の中には石を抱いていたり縛られたりしている遺体が多いことから、死者が蘇らないように、という死霊鎮圧説が最有力な説とされていると考えられます。これらのことから、縄文時代や弥生時代の文化に、宗教が深く入り込んでいることがわかります。ですが、これは古神道の話です。現在の神道はどのようになっているのでしょうか。では、そのことについて、舞の道のサイトによると、「日本人は岩や木、火や水などの自然物から人や物、食べ物にも神様は宿っているという「八百万の神様」の考えを持っていたため、仏教や儒教、キリスト教を受け入れる柔軟性がありました。」とあります。この古神道の力によって、他の宗教と混ざり、神道となります。

これも舞の道のサイトによると、「例えば、大日如来（仏教）が日本では天照大御神（神道）の姿になり、阿弥陀如来（仏教）は八幡神（神道）の姿である、というように神道の神様と仏教の神様は同じなんだという考えがまさに「神道と仏教を混ぜて使っている」のがわかります（本地垂迹（ほんじすいじゃく）説）。また、神道では死は穢れ（けがれ）と考えます。死によって汚れた生活を清め、儀式によって清めることで日常に戻します。そして、先祖崇拝というものがあります。故人はきちんと祀ることによって子孫を守る神となると考えられています。これらの考えが神道です。次に、中国の思想について、考えていきます。

中国には、3つの宗教、儒教、道教、仏教があります。この3つの宗教が栄え、国を支え続けた。今回は、仏教について考えていきます。明治大学のサイトによると「仏教が誕生した古代インドは「亜熱帯」であったが、中国は「温帯」であった。それぞれの社会や価値観は、気候風土の違いを反映し、大きく異なっていた。温帯に住む中国人にとって、この世は美衣美食や「商機」に満ちた楽しい世界であり、死後も「自分」は不滅であってほしかった。先祖崇拝、「福祿寿」の現世利益、死後の冥福、マニュアル化、などを求める傾向が強かった。また亜熱帯なら「無一物」の人も生存可能だが、温帯の中国では「無一物」の人は冬には凍死してしまう。中国人は、儒教的な格付け意識に敏感である。また祖先崇拝、父母への孝養、男尊女卑など儒教的価値観も根強かった。外来の宗教である仏教は、中国社会への浸透を図るために、先行する儒教的な儀礼や要素も採用し、中国人の欲求も考慮した。」そうです。そして、中国の人々は、これも明治大学のサイトによると、「先祖代々の墓の造営や維持を重んじる」ようです。

また、法事については「中国の仏教は、儒教の「祭祀」(「冠婚葬祭」の「祭」)の影響が強い。特に「百ヶ日」と「一周忌」、「三回忌」の3つの法要は儒教から採用したもの。」なようです。では最後に、このような仏教と神道の葬儀について調べていきます。いい葬儀のサイトと日本文明研究所のサイトによると、仏式の葬儀と神式の葬儀では、7つほどの違いがあります。日本文明研究所のサイトによると、まず1つ目は、葬儀・死生観の違いです。神道と仏教の葬儀は以下の内容です。

神道では、神葬祭という日本古来の信仰に基づいた葬儀があります。地方の習慣により儀式に若干違いもあります。故人の生前の業績を述べ遺徳をしのびつつ、祖霊となって遺族を守ってくれるよう願う儀式です。故人の靈魂は祖先の靈とともに家族の守護神となります。死後の世界と現世は連続するところに存在し、故人は正月・盆・彼岸・命日には現世とあの世の境界を自由に往来し、子孫の元に帰ることができると考えられています。

また、仏教では、それぞれの宗派の教義・宗旨によって、葬儀の意義や儀礼、死生観に違いはありますが、概ね、輪廻転生思想に基づき、死んでから四十九日は中有(三途の川)にとどまり、その後、生前の行いによって、地獄あるいは極楽浄土、または再び人間として生まれ変わるとしています。

これらの内容から、神道と仏教との死生観の違いがわかります。そして、仏式の葬儀には、四十九日のような葬儀後の法要があります。しかし、神式の葬儀にはありません。

これが2つ目の違いです。いい葬儀のサイトによると、神式には、四十九日と似た五十日祭というものが存在するだけで、法要のように複数回儀式を行うことはありません。

3つ目の違いは、場所です。執り行われる場所は斎場だけでなく、お寺で行う場合があります。しかし、神式の葬儀が神社で執り行われることはありません。これは神道では死を「穢れ」とみなし、神が祀られている場所に持ち込まないようにしているためです。「不幸があったときには鳥居をくぐってはいけない」とされているのも神道の考え方から来ています。

4つ目の違いは、焼香と玉串奉奠(たまぐしほうてん)です。仏式では一人ずつ棺の前でご焼香を行います。その際には線香がつきものですが、神式の葬儀にはどちらもありません。そもそも線香の役割については諸説ありますが、例えば仏式の葬儀では、故人の魂が冥土までの道を間違えないようにと、線香の煙がいわば道標の役割として使われているといわれています。しかし、神道では故人は守護神になるため、線香の煙を必要としないのです。そして、焼香・線香の代わりに玉串という木を神前に捧げる「玉串奉奠(たまぐしほうてん)」を行います。

5つ目は、仏教の読経と、神道の祝詞です。仏式では、お坊さんがお経を唱え、故人の冥福を祈ります。一方、神式ではお経ではなく祝詞を唱え、故人とともに子孫繁栄を祈るという目的があります。また、仏教の教えでは、魂は冥土で転生するという「輪廻転生」の考え方を信仰しているのに対して、神道では故人の魂は家の守護神になると考えられています。

6つ目は、戒名です。人が亡くなると仏教では生前の名前ではなく、仏門に入った証として戒名という名前をもらいます。しかし、神道では個人の名前は親と神からもらった大切なものであると考えられており、そのまま魂の名前として引き継がれます。名前の後ろに

故人の生前の行いや実績の評価などが書き足されます。この名前を「諡(おくりな)」と呼び、戒名と同じように死後の名前としてつけられます。

7つ目は、仏壇と御霊舎（みたまや）です。仏教は仏様やご先祖様を仏壇に祀りますが、神道では家の守護神として五十日祭を終えた故人の魂や、ご先祖様の魂そのものを御霊舎に祀ります。これらが、仏式の葬儀と神式の葬儀の違いです。すべてが、昔から行われていたわけではありませんが、それでも、考え方の違いは読み取ることができました。

結論

これまで調べたことをまとめ、まず、一つ目の疑問である、「古墳時代の日本人の葬送概念は、縄文時代や弥生時代と比べ、どう変化したのか」について、また考えます。これについては、古墳時代の一般市民の葬送概念はあまり変化していないと考えられます。なぜなら、古墳時代の一般市民の墓は、弥生時代と比べ、あまり変化がないからです。ですが、豪族の墓は古墳という大きな墓となり、副葬品もたくさん入っています。よって、死生観などに、関心を持ったことがわかります。次に、2つ目の疑問である、「現代の日本人の葬送概念と、古墳時代の日本人の概念は、違うところがあるのか」について、考えていきます。古墳時代の葬送概念は、「きらびやかであり続けてほしい」という思いでした。一方、現代の日本人の葬送概念は、人々のライフスタイルや価値観の多様化から、お葬式や埋葬に対する考え方も様々となっています。次に、3つ目の疑問の「外国の葬送概念との違い」について考えていきます。これは、先ほど書いた宗教から考えていきました。すると、死生観や法要、場所や線香、そして読経と祝詞、戒名などに違いが見られました。ですが、現代では、多様化によって、今は他にも、変わっていることがあるかもしれません。これについては、これから調べていきたいと思います。そして、最後の疑問の「日本の宗教と文化の関係と変化、そしてそこからわかる宗教について」を考えていきます。調べてみると、日本には古来から古神道というものがあり、仏教や儒教などが伝わったことで、様々な宗教が混じり合い、今の神道となったようです。この宗教は、縄文時代から存在しており、古墳時代からは仏教などと交わり、神道となっていく。三重大大学のサイトによると、この宗教では、「円の発想」というものを大事にしていたことから、竪穴住居は丸い、と考えることができるようです。そして、縄文時代から弥生時代に移り変わることで、社会生活や経済生活に大きな変動を起こしただけでなく、精神生活にも変化を生じさせました。日本宗教学会のサイトによると、弥生時代になることで、農耕社会となり、その中で階層化が芽生え、原初的な国家形態への胎動をはらんだ段階に応じて、その精神生活の指導原理は、縄文社会との習合の度合いに応じて、相当の違いを生じた、とあります。渡来した人々が種籾や水稲耕作を主とする新しい生業を渡来したことで、それと同時に、農耕儀礼や呪術、さらには古神道の考えとはずれているように感じる階層化が起きています。これは、渡来してきた人々の、価値判断の基準や行動様式、水稲耕作や種籾に関する説話を聞いたことで、それらの考えと日本人が古来から持つ古神道の考えと混ざり合い、結果、水や太陽の神をあがめるようになったと予想できます。そして、古墳時代になることで、仏教や儒教が入りこみ、仏が神道に出てくるようになり、墓や副葬品に、神を想起させる副葬品や、仏教で使われるような道具が副葬されるようになりました。昔はこのように、仏教や神道の考えを信仰していたことが想像しやすいです。ですが、現代は多様化が進み、より宗教が生活の中にしみこみ、見えなくなっています。これほどまで人の心に入り込んでいる宗教は、ときには人の支えとなることもありますが、ときには、凶悪な事件も起こさせるほど強力なものです。人々の思想が宗教と呼ばれ、そして宗教によって、これまで、社会はバランスを保っていたことがわかりました。

感想

今回、僕は墓や副葬品にある死生観、そこから宗教による変化を調べました。

僕は、宗教について調べていく内に、オウム真理教事件や、地下鉄サリン事件のような事件が過去に起きていたことを知りました。宗教は社会において、必要なものだと思いますが、このような危険な一面もあることを知りました。また、日本人は「自分は無宗教だ」と思っている人が多いですが、実際に見てみると、ハロウィーンやクリスマスなどのキリスト教の行事を楽しんだり、お正月には寺社に初詣に行ったりすることを恒例にしている人が多いのではないのでしょうか。僕は、聞いてみると「確かに！」と納得しました。お正月や初詣は神道の行事に由来します。他にも、大晦日や除夜の鐘などがあります。ちなみに、大晦日は神道の行事ですが、除夜の鐘は仏教なんだそうです。このように見てみると、日本人は数多くの宗教の行事を取り入れていることがわかります。このような宗教は、それぞれ違いがありますが、それぞれとても強い力を持っています。その強さは、人々を従わせられるところ。ですが、宗教のような思想の原型は、古墳時代や縄文時代よりもはるか昔からあったようです。ユヴァル・ノア・ハラリの「ヒトはこうして地球の支配者になった」は、ヒトがどうやって地球の支配者になったのか、

ということについて書かれています。そこには、「ヒト（ホモサピエンス）の持つスーパーパワーは、実際にはないことを考える力だ。伝説やおとぎ話、そして神話を作り出せる動物、そしてそれを信じられる動物は、ヒトしかない」と書かれています。この本を読んだ時、宗教などの原型はここから、のように感じました。そして、重要なのは、この力はヒトならみんな使えるところです。人類の物語という本では、その力によって、ネアンデルタール人に勝つことができた、と書かれています。この力のすごいところは、ヒトならみんな使うことができ、それを使いたくさんの人たちと力を合わせることで、ライオンやゾウよりも強くなることができるということです。この力は、とても素晴らしいものにもなりますが、使い方を間違えれば、戦争のような悲しいものにもなります。そんなものを、自分たちは持っているのか、と思うと、とても驚きです。なので、宗教について調べたことで得たこの知識を、自信に変えて、うまく使っていきたいです。そして、宗教のエスカレートによって起こる危険な事件を、どうやったら減らし、そして失くすことができるのかについても、考えてみたいです。

参考文献

文献・資料

- ・ユヴァル・ノア・ハラリ 「人類の物語 ヒトはこうして地球の支配者になった」
株式会社河出書房新社 2022年11月20日
- ・東国文化副読本 群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会 2021年

webサイト

- ・コトバンク 屈葬 2024年8月2日
<https://kotobank.jp/word/%E5%B1%88%E8%91%AC-55569>
- ・TRANS.Biz アニミズム 2024年8月2日
<https://biz.trans-suite.jp/23805>
- ・全国こども考古学教室 もっと知りたい縄文時代 2024年8月3日
https://kids-kouko.com/2021_jyomon/
- ・全国こども考古学教室 もっと知りたい弥生時代 2024年8月3日
https://kids-kouko.com/2021_yayoi/
- ・全国こども考古学教室 もっと知りたい古墳時代 2024年8月3日
https://kids-kouko.com/2021_kofun/
- ・大阪大学考古学教室 解説⑤古墳の副葬品 1 2024年8月4日
https://nonaka-kofun3d.jp/explanation_05.html
- ・高崎市文化財情報 観音山古墳 2024年8月4日
<https://www.city.takasaki.gunma.jp/site/cultural-assets/2372.html>
- ・厚生労働科学研究成果データベース 墓地埋葬等に関する住民の意識調査 2024年8月6日
https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2013/131031/201305006A_upload/201305006A0008.pdf
- ・お葬式のひびき 昔の葬儀と今の葬儀の時代ごとの風習・習慣の違い 2024年8月6日
<https://kazokusou-hibiki.jp/column/2696/>
- ・湯梨浜町役場 第4節 古墳時代 2024年8月6日
https://www.yurihama.jp/town_history2/2hen/1syo/04010200.htm#:~:text=%E4%B8%80%E8%88%AC%E5%BA%B6%E6%B0%91%E3%81%AE%E5%A2%93%E3%81%AF,%E5%BE%97%E3%81%9F%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%80%82
- ・静岡県立大学 グローバル地域学習センター 第1部 中国思想と混合種族 2024年8月9日
<https://www.global-center.jp/media/20161007-135715-6886.pdf>
- ・コトバンク 神道 2024年8月13日
[https://kotobank.jp/word/%E7%A5%9E%E9%81%93-82299#:~:text=%E7%A5%9E%E9%81%93%20\(%E3%81%97%E3%82%93%E3%81%A8%E3%81%86\)&text=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BA%E6%9C%89%E3%81%AE%E6%B0%91%E6%97%8F%E5%AE%97%E6%95%99,%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%B0%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%89%E3%82%8F%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82](https://kotobank.jp/word/%E7%A5%9E%E9%81%93-82299#:~:text=%E7%A5%9E%E9%81%93%20(%E3%81%97%E3%82%93%E3%81%A8%E3%81%86)&text=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BA%E6%9C%89%E3%81%AE%E6%B0%91%E6%97%8F%E5%AE%97%E6%95%99,%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%B0%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%89%E3%82%8F%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82)
- ・コトバンク 古神道 2024年8月13日

<https://kotobank.jp/word/%E5%8F%A4%E7%A5%9E%E9%81%93-64856#:~:text=%E5%8F%A4%E7%A5%9E%E9%81%93%E3%81%93%E3%81%97%E3%82%93%E3%81%A8%E3%81%86,%E3%82%82%E3%81%AA%E5%86%85%E5%AE%B9%E3%81%A8%E3%81%99%E3%82%8B%E3%80%82>

・ 神道国際学会 神道とは 2024年8月13日

https://www.shinto.org/wordjp/?page_id=2

・ 小さなお葬式 昔の葬儀はどんな内容だった？ 2024年8月13日

<https://www.osohshiki.jp/column/article/208/>

・ 福井県立武生高等学校 日本人らしさと宗教 2024年8月13日

<https://www.takefu-h.ed.jp/wp-content/uploads/2022/12/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA%E3%82%89%E3%81%97%E3%81%95%E3%81%A8%E5%AE%97%E6%95%99.pdf>

・ 三重大大学 第一節 日本の神様の歴史について 2024年8月13日

<https://educational-psychology.edu.mie-u.ac.jp/thesis/2018/ogura/first.html>

・ 舞の道 観音舞 古神道をわかりやすく解説 2024年8月13日

<https://mainomichi.com/mblog/ancient-shinto/>

・ 明治大学 宗教から見る中国の歴史 2024年8月13日

<https://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/waseda20220705.html>

・ 警視庁ホームページ オウム真理教の危険 2024年8月14日

<https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/heion/aum.html>

・ いい葬儀 仏式（仏教）と神式（神道）の違いとは？ 2024年8月14日

<https://www.e-sogi.com/guide/1656/>

・ 日本宗教学会 弥生時代の宗教 2024年8月14日

<https://jpars.org/journal/database/wp-content/uploads/2019/02/226.pdf>

・ 日本文明研究所 神道と仏教 葬儀の違い 2024年8月14日

<https://www.nippon-bunmei.jp/topics/shinnsousai/qa-1.html>